

科目名称	基礎看護技術Ⅲ(診療に伴う技術)	学年学期	単位数	時間数
		1学年後期	1	30
担当教員	宮下佳生 大塚 環	授業に関わる実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (看護師) <input type="checkbox"/> 無	

#### 【1】 授業概要

診察・検査・治療・処置における基礎看護技術を科学的根拠に基づき、確かつ安全・安楽に提供できるようになるために、診療に伴う各基礎看護技術提供に関連する既習の知識を想起し、対象に応じた援助方法を学ぶ。

#### 【2】 学習目標

1. 診察・検査・治療・処置について原理・原則に基づいた基本的援助方法および看護師の役割を説明できる。
2. 診察・検査・治療・処置における対象者の身体的侵襲、精神的影響について説明できる。
3. 1および2に基づき、事例に応じた皮下注射・筋肉内注射・静脈血採血・点滴静脈注射(輸液ポンプ含む)・直腸内与薬・包帯法について医療安全を意識しながら実施でき、今後の看護ケアに活かせるよう振り返り考察できる。
4. 看護技術のエビデンスは、日々進歩し続けていることを理解し、学び続けることの必要性を理解できる。

#### 【3】 第2看護学科ディプロマポリシーとの関連性

- 1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。
- 2. 人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。
- 3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理に基づいた看護実践をすることができる。
- 4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。
- 5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種の連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。
- 6. 松山市および愛媛県周辺の地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる。
- 7. 自己の資質向上のため、看護に対する探究心・向上心を持ち、主体的に学び続けることができる。

#### 【4】 授業計画

	内容	主な授業形態
1	創傷管理技術とは	講義
2	褥瘡予防	講義
3	検査における技術と生体検査時の看護	演習
4	血液検査/簡易血糖測定	講義
5	輸血時の看護	講義
6	薬剤の管理/与薬時の看護	講義
7	経口薬と非経口薬の取り扱い	講義
8	注射薬の準備	講義
9	静脈血採血	講義・演習
10		
11	注射の実施	講義・演習
12	点滴静脈内注射と管理/輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い	講義・演習
13	救命救急処置技術	講義
14	救命救急処置技術/口腔内・鼻腔内吸引	講義・演習
15	筆記試験・まとめ	

#### 【5】 評価方法

科目評価は、筆記試験(80点)、レポートおよび演習課題(20点)で総合的に評価する。

総合点が60点に満たない場合は、再試験を行う。

#### 【6】 教科書

任和子:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ(第19版) 医学書院 2026(電子版)

#### 【7】 参考書

授業内で提示、配布する。

**【8】受講生へのメッセージ**

診療に伴う看護技術について学習します。モデル人形を用いながら安全な技術の習得を目指し、検査・治療における看護師の役割について学びましょう。